

上杉伯爵邸再建100年記念事業

限定
公開の
場所も!

上杉
博物館
コラボ

上杉伯爵邸 100年の時を開く

歴史・建築・食文化解説付きツアー

令和7年6月7日(土)

10:00~14:30

上杉伯爵邸は、明治29年(1896)、最後の米沢藩主上杉茂憲伯爵の邸宅として建てられましたが、大正8年(1919)に焼失しました。

その後、大正14年(1925)に、当時の上杉家当主上杉憲章伯爵の邸宅として再建され、今年で100年を迎えます。

米沢藩主上杉家の伝統を受け継ぐ建物は、国の登録有形文化財となっています。

その魅力を満喫できる、歴史と建物好きな方に贈る特別プログラムを実施しました。

プログラム

1



歴史・建築解説付きで
邸内を回る

プログラム

2



博物館の
解説付き見学

プログラム

3



昼食と食文化
セミナー





山形大学工学部教授
永井康雄氏



「歴史的建造物の保存と活用に関する研究」「歴史的建造物の設計方法(木割)に関する研究」を行っており、様々な学会・委員会に所属し東北を中心として活躍している。



◀庭に面した廊下のガラス戸脇には、上杉邦憲氏がまだ小さくハイハイをしていた頃、落下防止の柵を母の敏子氏が取り付けただの釘の跡が残っています。

1 歴史・建築解説付きで 邸内を回る



▲上杉伯爵邸で最も上位空間の御二階。柱には貴重な檜樹が使用されています。

江戸時代から近代の 空間秩序を受け継ぐ

上杉伯爵邸は近代和風住宅で、現在は米沢の味と文化をお楽しみいただける特別なお食事処として、人々に親しまれています。細かく見てみると日本風の意匠を備えながらも、コンクリートやガラス、鉄といった新しい材料、西洋風のデザインを加味した建物であり、百年の歴史を感じる興味深い空間となっております。

米沢城の本丸御殿の図面を見てみると、玄関から家臣の詰め所、控えの間、三ノ間、二ノ間、一ノ間というように、

奥に行けば行くほど、上位空間となっております。上杉伯爵邸もその空間秩序を引き継いでおり、表向きの空間と、貴賓の方が訪れる空間、女中部屋や台所といった家政機能的な空間、家族が過ごす住居部分に分かれています。床の間に用いられた柱の材質や、欄間のデザイン、ガラスの使い方の違いから、それぞれの座敷の位置づけや用途が分かります。子ども部屋には生活感を感じる傷も。大正十四年には、当時皇太子だった昭和天皇が米沢を行啓された際、二階の貴賓の間は食堂として使われました。



▲上杉伯爵邸に残る杉戸絵。作者は未詳ですが、松の葉や鶴の毛は立体的かつ写実的に描かれ、相応の技量のある人物と考えられます。江戸時代の伝統を受け継ぎ、表と奥の空間を分ける境界に杉戸があることが特徴です。

◀庭から建物を眺めるこの場所は、玄関脇から、大広間、御二階、仏間など、建物の特徴がしっかり分かり、昔も今もフォトスポットとなっています。上杉家では、伯爵を中心に、団体集合写真を撮っています。訪れた際にはこの場所でぜひ記念写真を！



昭和11年 上杉憲章夫妻を囲む集合写真(米沢市上杉博物館蔵)



2 博物館の解説付き見学

上杉伯爵邸の歴史と背景を知る

明治四年、廃藩置県により上杉家は米沢を離れ、東京に移り住むことを余儀なくされました。米沢城は廃城となり城内の建物は撤去、松岬公園と上杉神社として整備されます。明治二十年代になり政府の制限が緩和されると、上杉家は米沢への再移住を進めました。それが明治二十九年、最後の米沢藩主上杉茂憲伯爵の邸宅として建てられた、上杉伯爵邸です。しかし大正八年四月、茂憲が死去し、息子の憲章が跡を継いだ翌月、米沢市内西方で発生した大火により焼失してしまいます。

米沢市上杉博物館学芸員
佐藤正三郎氏

専門は日本近世史、アーカイブズ学。今回、特別展「上杉家の御殿」を担当。その他の担当展示として「上杉鷹山の生涯」「米沢城 上杉氏の居城」他。



特別展「上杉家の御殿」展示風景

焼け跡の様子を写した絵葉書には、土蔵が映り込んでおり、向きが異なるものの現存する土蔵と同じものではないかとのこと。大正の大火の避難記録が残っており、上杉家の宝

物が現存するのは土蔵に保管したおかげと考えられています。その後、大正十四年に、当時の上杉家当主上杉憲章伯爵の邸宅として再建されたのが、現在の伯爵邸です。ツアーでは明治期、大正期の建物の写真と図面を見比べながら、異なる部分について教えていただきます。再建された建物の設計は中條精一郎。米沢藩の中級藩士の家柄で、父も祖父も上杉家の殿様の側近くに仕え、精一郎は憲章と共にケンブリッジ大学に留学していました。近年の調査で、屋根の上から大正十二年という記録、再建時の棟梁江部家より貴重な図面が発見されています。

博物館では江戸時代の米沢城と江戸藩邸、伯爵邸の図面や記録を見学しました。今後も調査を進め、文化財の価値向上、活用を目指しPRされていくそうです。



まつがさきしょうちゅうず
江戸時代の「松崎城城図」を元に編集された「米沢城跡散策マップ」が配られ、当時と現在の位置関係についてお話を伺いながら、想像を膨らませ楽しみました。

伯爵邸略図



「さらによくわかる!」

連携事業 米沢市上杉博物館 特別展
会期: 2025年4月19日~6月22日

「上杉家の御殿」
詳細はQRをクリック(タップ)してください

展示会の内容を簡単にまとめた映像は、情報ライブラリーで無料で閲覧できます。展示図録も同館にてご覧いただけます。



「ツアーでも使用」

「松崎城城図」複製販売中

米沢城の間取りや由緒、逸話、修繕の様子まで、本丸・二の丸の秘密が丸わかりな絵図の複製。
詳細はQRをクリック(タップ)してください





御水菓子
自家製羊羹
さくらんぼ

御向付
洗い
米沢鯉
穂紫蘇
酢味噌

御焼物
鯛の塩焼
いり海老
うこぎの切和え

御煮物椀
酒煮
米沢牛味噌仕立
里芋 さや
大根 人参

御祝録
水とえ
うこぎの冷汁
干貝柱 塩引寿司

御香物
かす漬
窪田茄子

御吸物
潮仕立
鯛
菊花
葱
青柚子

御汁
味噌仕立
大根
占地
茄子

御飯
上杉藉田米
つや姫
イクラ

3 昼食と食文化セミナー

九代藩主上杉鷹山にまつわる献立をいただく

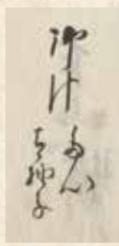
米沢城内で行われた、鷹山の結婚祝いのお膳を軸に、鷹山にまつわる献立や、現代の特産である米沢牛、さくらんぼなどが加えられ、当時を想像しながら食事を楽しみました。海のない米沢で海産物はとても貴重なものでした。鮭は塩漬けに、鯛は傷みを考慮し、人数分より多く運ばせていました。冷や汁は謙信が戦にも持参した料理といひ伝えられています。鷹山の時代にはたっぷり野菜が加えられ、健康を考え食べられていたようです。鷹山が進めた「かてももの」の本はレシピ本ではなく、飢餓に備えるため、食べられる山菜や野草を紹介する本。食べ方の工夫や食に対する精神は今も郷土料理に活かされています。



上杉伯爵邸代表である遠藤勲による食文化解説



古文書を基に鯛と青柚子を使用し、再現された御汁



◀再現の根拠となった実際の古文書の一部「八月廿三日御吉辰二付御婚礼御用諸事量帳」(米沢市上杉博物館蔵)「御汁 たい 青柚子」と記載されています。



◀この日頂いたお米は「上杉藉田米」。江戸時代中期、財政難や飢餓に見舞われた破綻寸前の米沢を救いたと、鷹山は自ら田に入り鋤を持ち「藉田の礼」という儀式を行いました。どんなに辛くてもあきらめず道を拓くという心意気は、今も生産者によって受け継がれ、祈念行事などを行い栽培されています。



一部料理は伯爵邸献膳メニューでもお召し上がりいただけます。

